

2017年6月30日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

コミットメントの達成進捗状況について

当社は、2016年8月18日開催の2016年6月期決算説明会において、2017年6月期に達成すべき目標(コミットメント)として「CBP501臨床試験開始」「CBP501・CBS9106に続く後続パイプラインの少なくとも1つで開発候補化合物を確定」の2点を掲げました。

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?template=announcement&sid=31958&code=4575>

このたび2017年6月期の終了にあたり、上記コミットメントの達成進捗状況をご報告します。

◆コミットメント1. CBP501臨床試験開始

コミットメントを掲げた2016年8月時点では開始時期・実施地域ともに未確定でしたが、その後の準備の進捗により当社は2017年4月、CBP501について、米国FDAから米国での臨床試験(フェーズ1b試験)開始の承認を取得しました。

《適時開示》

2017年4月10日「CBP501臨床試験(フェーズ1b試験)開始承認取得について」

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1457047>

《内容》

ClinicalTrials.gov “CBP501, Cisplatin and Nivolumab in Advanced Refractory Tumors”

<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT03113188>

この第1b相臨床試験は、CBP501、シスプラチン、ニボルマブ(商品名:オプジーボ、抗PD-1免疫チェックポイント阻害抗体)の3剤併用による、オープンラベル・非無作為化・非対照試験です。米国内の複数の施設での試験実施を予定しています。

現在当社は、臨床試験実施施設との最終調整等をほぼ完了し、近日中に最初の実施施設で症例組み入れが開始される予定です。最初の症例組み入れ(FPI: First Patient In)に至った際には、改めてお知らせいたします。

◆コミットメント2. 後続パイプラインの開発候補化合物確定

当社は、コミットメントを掲げた2016年8月時点で、後続パイプラインの候補として、

- A) CBP-Aシリーズ
TAT-S216~CBP501の系譜に属するペプチド型化合物の発展型
 - B) CBP-Bシリーズ
CBP-Aシリーズとまったく別の発想から作製したペプチド型免疫系抗癌剤候補
 - C) IDO/TDO阻害剤
免疫系抗癌剤(低分子)。静岡県立医大との共同研究
 - D) 低分子化合物(ターゲット非公表)
共同研究先ファルマバレーのライブラリから探索・最適化するもの
- …の4系統で、後続パイプライン候補化合物の創出・選定を進めていました。

当社は2017年6月期末までに、A)のCBP-Aシリーズにおいて、in vivo(マウス)でCBP501を抗腫瘍活性において上回る次世代候補化合物**CBP-A08**を獲得することができました。

現在、毒性のプロファイルを確認するための動物試験を実施しており、この終了まで数週間を要します。
この確認を無事に終えれば、財務面等の制約を勘案しつつできるだけ早い時期に、CBP-A08前臨床試験開始のための化合物大量合成を発注する計画です。
なお、上記の4系統による後続パイプライン探索創出は今後も継続してまいります。

コミットメントの達成進捗状況は以上のとおりとなりました。

◆その他のプロジェクトの進捗状況

(1) CBP501提携獲得

最先行パイプラインCBP501については、

- ・既に完了している悪性胸膜中皮腫・非小細胞肺癌対象の臨床第2相試験結果を踏まえた提携交渉
 - ・近日中に開始予定の臨床第1b相試験のパートナー交渉
- の複線で進めていますが、2017年6月期中の提携成立には至りませんでした。

今回実施する第1b相臨床試験でCBP501と免疫系抗癌剤の併用について安全性及び有効性の一部を確認することができた場合には(試験途上で確認できた場合を含む)、CBP501についてかねてから獲得努力を続けている製薬企業との提携の成立可能性が飛躍的に高まると考えられるため、本件臨床試験の進行中も、厳格な守秘義務契約下で情報を逐次アップデートして交渉を続けてまいります。

(2) CBS9106

CBS9106は、2014年12月にStemline社と締結したライセンス契約に基づき、現在米国で固形癌を対象とする臨床第1相試験が進められており、この試験の進捗は順調と認識しています。

現在当社は、同社とのライセンス契約で除外地域となっている日本・中国・台湾・韓国におけるライセンス契約獲得活動を進めています。

(3) 富士フイルム株式会社との共同研究

2017年6月26日に公表いたしましたとおり、当社と富士フイルム株式会社は同日、ペプチドなど中分子医薬品の分野を中心に、癌免疫療法の医薬品探索を目的とした共同研究契約を締結いたしました。

◆コメント

今回のコミットメント達成進捗状況について、当社代表取締役社長河邊拓己は次のようにコメントしています。

「上記ご報告のとおり当社は、2017年6月期に達成すべき目標として掲げた2つのコミットメントを概ね達成することができました。

近年の免疫チェックポイント抗体の成功に伴い、進行癌に対する新薬開発の際に現実的に目指せる目標が『余命の中央値の延長』から『長期延命』に移行しつつあります。このような状況の中、現在免疫チェックポイント抗体の恩恵を受けることのできない患者さんにその恩恵を広げられるかどうかを試しに行く今回の臨床試験は、キャンパスの目指す癌克服へ向けた大きな一歩です。

また、CBP501の研究開発から得た知見をもとにより良い次世代抗癌剤候補CBP-A08を獲得したこと、静岡県立大学とのIDO/TDO阻害剤開発、さらに富士フイルムとの新規免疫系抗癌剤創出に向けた共同研究の開始は、我々が長い準備期間を終えて新たな展開期に入ったことを意味していると考えています。」

以上

当社の抗癌剤候補化合物CBP501は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業の結果得られた「堅牢な合成方法」を活用して製造しています。